

マルチメディアプレゼンテーションシステムSPOCを用いた社会問題に関する情報提供とウェブログを用いた情報発信に関する実験報告

福原知宏(東京大学人工物工学研究センター), 松村憲一(大阪大学大学院工学研究科), 村山敏泰(SPSS Japan Inc.), 中野有紀子(東京農工大学大学院工学府), 西田豊明(京都大学大学院情報学研究科)

SPOCの社会実装に向けて

SPOC (Stream-oriented Public Opinion Channel)は社会技術研究開発センター・ミッションプログラムI・会話型知識プロセス研究グループにて開発されたマルチメディアプレゼンテーションシステムである。SPOCはWebブラウザ上で動作し、テレビ番組の形式で情報提供を行うシステムである。SPOCでは視聴者の理解が得られるよう、(1)画像(動画、静止画を含む)と、(2)司会者キャラクタを組み合わせて情報提供を行う(Fig.1参照)。

本研究ではSPOCの社会実装に向けて、SPOCを用いた専門家からの社会問題に関する情報提供と、ウェブログを用いた市民からの情報発信を想定した実験を行った。

実験の概要

実験は2005年12月21日から2006年1月31日にかけて行われた。実験参加者は20代から50代までの男女62名(男性28名, 女性34名)であった。実験は前期実験と後期実験からなる(Fig.2参照)。

前期実験では参加者の社会問題についての関心とSPOCコンテンツの違いによる内容理解の差を探ることを目的とし、アンケート調査を行った。参加者を2群(A群, B群)に分け、A群には社会問題に関する個人のエピソードなど主観的情報を含むコンテンツを提供し、B群には主観的情報に加えて統計データなど客観的情報を含むコンテンツを提供した。

後期実験では社会問題に関する参加者の意見や関心を把握する目的で、参加者はSPOCコンテンツや参加者の関心のある社会の出来事についてブログ記事を作成しアンケートに回答した。参加者は週に2日以上、1記事最低100文字を含むブログ記事の作成が求められた。期間中、刺激として前期4件のSPOCコンテンツに加え11件のSPOCコンテンツが追加提供された。

実験結果

実験の結果は次の3つの観点に分けられる:(1)リスクコミュニケーションにおけるSPOCの情報伝達ツールとしての効果,(2)ウェブログを用いた情報発信に関する効果,(3)SPOCコンテンツ提供サイトに関する評価である。

第1の観点では、情報伝達ツールとしてのSPOCは肯定的に受け容れられた。司会者キャラクタの効果については積極的な評価は得られなかった。音声合成に関しては、高品質の音声合成を用いたこともあり肯定的評価が得られた。

第2の観点では、ブログは情報発信ツールとして敷居が低く、社会問題に関して意見や考えを述べる場としても捉えられていることが分かった。

第3の観点では、社会問題についての情報提供方式として肯定的評価を得た。一方、より長期に渡る継続的調査の必要性も明らかになった。

まとめ

SPOCを用いたリスクコミュニケーションに関する評価実験を行った。SPOCによる情報提供とウェブログを用いた情報発信についてアンケート調査を行った。この結果、SPOCを用いた情報提供の有効性と課題、ウェブログを使った意見表明の可能性と注意点、情報提供サイトの運営方法についての注意点を確認した。

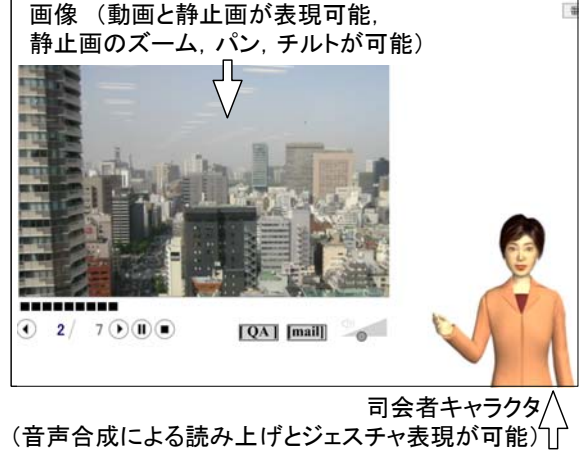


Fig.1 SPOCコンテンツ視聴画面

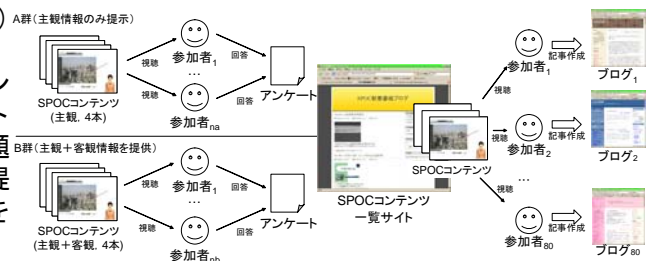
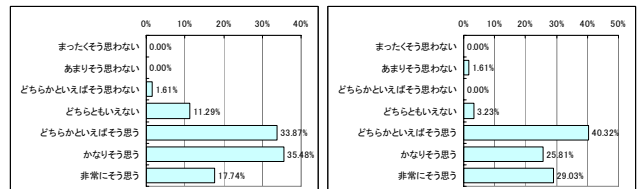
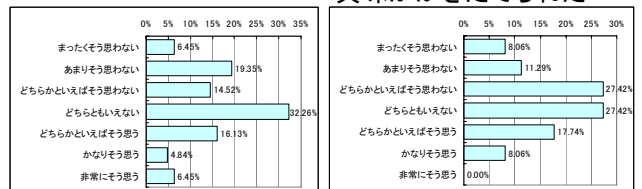


Fig.2 実験の概要



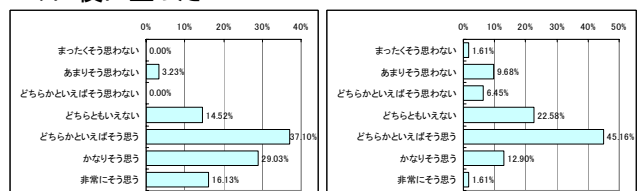
SPOCのコンテンツはわかりやすかった

コンテンツの視聴により様々な社会問題に対する興味がかきたてられた



司会者キャラクタはコンテンツの内容を理解するのに役に立った

司会者キャラクタの振る舞いは自然だった



ブログは自分が気になっている社会問題を取り上げるのに適している

ブログで多くの人が社会問題を取り上げることで、社会が問題解決に向けて動く